

2016年 昭和南海地震から70年 過去に学び、未来を守る 防災メモリアルイヤー

毎月1点検運動 12月テーマ 『電気等ライフライン』



平成26年12月の大雪により、県西部の山間地域では長期間の停電が発生しました。電気や水、ガスなどの燃料の途絶に備えましょう。家庭では、ローソクや乾電池、カセットコンロの準備、風呂の残り湯の貯めおきも有効です。事業所では、自家発電機の整備など必要な対策に取り組みましょう。

「ライフラインの途絶」を想像してみよう！

「オール電化」「プロパンガス利用」「都市ガス利用」「太陽光発電」など、自宅の状況と、熊本地震や東日本大震災のライフライン復旧実績を比べ、我が家のウィークポイントを考えましょう。



	熊本地震	東日本大震災
ライフライン復旧率	<ul style="list-style-type: none"> ・電気 1週間 ・水道 1週間で大きく改善 → その後は緩やかに改善 ・都市ガス 2週間 でほとんどが復旧しました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・電気 当日：11%→1日後：52% →3日後：79%→1週間後：96% ・水道 3日後：50%→1週間後：66% →2週間後：88%→3週間後：99% ・都市ガス 当日：0%→1週間後：9%→2週間後：13% →3週間後：42%→5週間後：99%

「いざというときに困らないため、今から備えよう！」

○ 経験者が語る「災害の時に欲しかった物」

停電への備え

- 懐中電灯・乾電池・ランタン・ラジオ・ローソク
※ヘッドライトは、両手が使えて便利です。
- 充電器(手巻き式・太陽電池)
- 自動車用の電源アダプター
- 携帯電話の予備バッテリー
※携帯電話は、常に充電しておく。
※携帯電話に登録している連絡先は、手帳などにメモしておきましょう。



断水への備え

- 飲料水 ※備蓄の目安
1人・1日・3ℓ×3日分=9ℓ
(できれば7日分)
- 給水タンク(ポリタンク)、バケツ
※場所をとらない「給水袋」も市販されています。
- くみ置き水
※風呂の残り湯は、断水時には、初期消火や、トイレを流したり、清掃などに活用できます。



電気・ガスが止まった時の熱源確保

- 石油ストーブ・灯油・使い捨てカイロ
- 簡易コンロ・ガスボンベ
- ライター・マッチ



一般的な「ガス」には、地震が発生した場合、自動的にガスを止める安全装置が付いています。

安全装置の復帰方法は、事前に、ガス会社に聞くなどして知っておきましょう。

注意

電気ストーブ・電気こたつ・アイロン等を使用中のまま停電した場合、転倒してスイッチが入った場合などは、電力が復旧した際に、「通電火災」と呼ばれる火事につながる可能性があります。



- ◆ 避難の際には、家のブレーカーを切りましょう。
- ◆ 地震の揺れを感知し、自動的にブレーカーを落とす「感震ブレーカー」を設置しましょう。

☆点検で気づいたこと、うまくいった事例やアイデアなど、皆様からのご意見を募集します。

☆詳しくは県のHP「安心とくしま」をご覧ください。
⇒ 安心とくしま <http://anshin.pref.tokushima.jp/>

とくしま災時記(12月編)

2014(平26)年12/5~6 県西部の大雪(集落孤立864戸)
1988(昭63)年12/15~16 宍喰・海南町の山火事(60ha)
1946(昭21)年12/21 昭和南海地震 M8.0
1605年12/16 慶長地震(東海・東南海・南海地震) M7.9